３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

【定例活動報告】知足の森

知足の森では、先月の嵐山の森での枝打ちの「練習会」を経て、本格的に枝打ちを始めました。現在、知足の森では、境界線の確認ができたところから作業を進めていますが、その中でももっとも広い区画ではスギヒノキの手入れが遅れており、枝打ちも「しがい」のある木がたくさんあります。間伐も並行して行いたいのですが、まずは現状を掴む、という意味も含めて、枝打ちに取り組むことになりました。高さはかなりあるのですが、手入れが遅れているためか、全体的に細い木が多く、それでもハシゴの頭頂部の鎖が届かないものもあり、この点については安全確保という意味でも次回の宿題としたいと思います。作業自体は中学生、高校生、大学生とスタッフで９名、ハシゴ３本で３２本の枝を打つことができました。安全ベルトの本数が限られているので、うまく回し、時間のロスがないようにし、ハシゴに登っていない生徒は落ちてくる枝に注意しな

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

がら、枝を集め、整理していきました。枝打ちは自分で進められる活動なので、すっと作業に集中して、自分で仕上げた木を見上げた時、充実感がある活動です。高い所が苦手、という生徒もいますが、みな、チャレンジ精神を持って取り組んでいました。また受験を終えた３年生も「復帰」してきており、後輩の指導をしてくれたりと活気がある1日となりました。今回はそんな３年生の報告も掲載させていただきます。

宮村　連理（本会、副理事長）

今回は久しぶりの参加で知足の森での枝打ち作業をした。その時の後輩たちの動きが、前に参加した時より早く感じた。後輩の成長を嬉しく思う反面、少し焦りも感じた。枝打ちではむかでばしごを使い木に登りながら生えている枝を切っていくのだが、その日はとても風が強く高く登ると木が揺れた。自分も含め一緒に作業していた後輩は最初のうちは少しビビっていたが、だんだん慣れていった。（自分より後輩の方が先に慣れた）枝打ちの作業自体は割と簡単な部類に入るのだが、長い間枝打ちしていなかったせいなのかやたらと太い枝が多く、また数も多かった。枝打ち用の鋸を使ったため（無くしかけたのは内緒である）この日は全体合わせ３２本枝打ちすることが出来た。

久しぶりの参加であったが特にトラブルもなく（？）作業が出来たのでよかった。これからはまた定期的に参加することが出来そうなので、今年一年も後輩たちと共に地球環境部の活動をしていきたい。

吉留　瑞貴（三鷹市立第二中学校３年）

枝打ちは順調に

ムカデ梯子に前回の練習の甲斐があり、中学生コツをつかんでいたため、夢中で作業をしていました

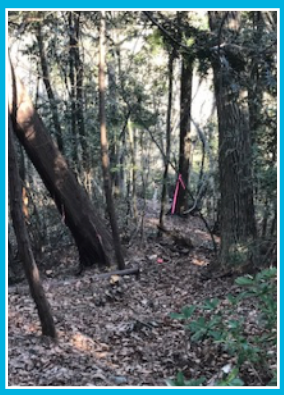
【定例活動報告】
相模湖・嵐山の森

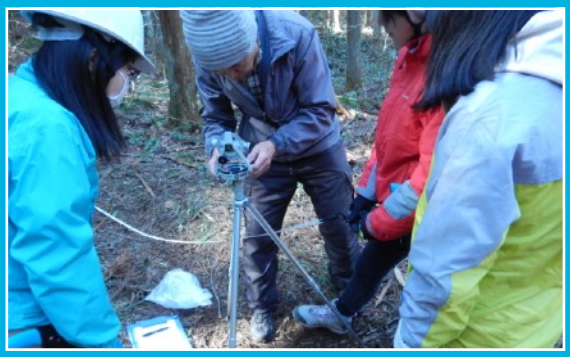
幸いにも長く晴天が続いている。少し寒さは残るが春の予感を感じさせる陽気であった。Novaの学生も試験が終わり晴れやかな気分で参加されている様だ。そうでない学生もいるらしい。処々残雪のためぬかるみが気になるせいか、各リーダーからはリスク管理の伝達があった。

森林整備班は公図と林班図の照合作業を山岳で実地調査をした上で、今後の活動に森林所有者の境界を共通認識して、安心して作業ができる様に区画線引きを終日行った。

森林組合が所有する林班図と公図が作成時期のずれもあってか、符合するのは緑のダムの基地、乾燥小屋の直角に折れ曲がった特徴ある山道くらいであったため、どこから調査を始めて良いのか苦戦を強いられた作業であった。一番の発見は電線に沿った澤地を特定するために障害になった隣りを横切る道路が見当たらないことであった。

昼食の後、再度挑戦を試みる時、急峻な登り道を発見したので10分程登ると稜線にでた。そこにはちゃんとした林道が、恐らく嵐山山頂に続く稜線であろう道があった。しかも、森林組合の境界杭が整備されていた。この発見から公図に引かれた線と境界杭の特定ができたので、あらかたの境界を調査することができた。お寺の敷地として作業されているエリアが若干他人の林班に割り込んでいること等、結構「やばい」現実が浮き彫りになった。





これからは、地主さんと境界線の共通認識を共有し、我々の作業可能エリアを明確に特定するための話合いを行い、今後のNPO活動に不安が残ら無いよう全員で認識を持つことである。3月1週の小原の活動で明確にしたいと思っている。管理を任されることになると、伐採計画や作業報告などが義務付けられることになる。

これから施行される森林環境税などの絡みで、ちゃんとした作業技術と報告の義務をもって森林管理業務を行うという責任が課せられる時代に突入したということだ

（報告：小林　照夫）

今回、Forest Novaは2人での参加だった。参加人数が少なかったため地球環境部に入れてもらう形で活動を行った。活動内容は測量と枝打ちだった。測量は、タグのつけてある木の幹の円周を一定の高さで測るというものだった。その日は天気は良かったが日陰での作業だったので寒くて仕方なかった。最初、測量と聞いた時は山の斜面から何か計算するのかと思っていた。

午後からの枝打ちは、山の高い所のアオキを切ることがメインだった。アオキは長い間放置されていたのか、深く生い茂っていた。こちらも日陰での作業がメインだったが、体を動かすからかあまり寒さを感じなかった。

活動終わりにカブトムシ牧場のチェックをした。

カブトムシの幼虫は深く潜っているのか5匹ほどしか確認できず、寒さで死んでいるものもいた。また、あまり大きくなかったので少しショックだった。

すでに持ち帰った幼虫を学校で何匹か飼育しているので、その容器に三匹ほど今回採れた幼虫を追加して様子を見てみることにする。

（報告：望月　健一）

地球環境部は現在作業している区画の間伐が進んできてため、一度状況を確認するため、作業区画の測量と毎木調査を行うことにした。このところずっと参加してくださっている損保ジャパンの粟田さんのアドバイスで、チェックした木にスズランテープを巻き、重複しないよう作業を進めた。これまで望星の森でも毎木（全木）調査をしてきたが、ついつい重複していたり（しかもデータが異なるから困ります）、抜けがあったりしたので、この方法は大変助かりました。測量チームは境界線を探すわけではないのだが、区画面積が必要なため行った。桜井先生もご指導くださり、データを方眼紙上に書き写して面積を計算するのとGIS上での面積計算を比較するなどのアドバイスもいただけた。学芸大小金井中の生徒が中心になって測量を行い、学校に持ち帰り、計算をしているところであるが、ざっくりと面積は0.2ha、で約200本（実際には正確に本数を数えてあるが）であった。本数／面積はこれで出るが、今回の桜井先生からのミッションは１本と言っても太さはバラバラ。よくあるような間伐率は何％よりもより正確なデータを取るべきだ、というものに沿って、全ての木の胸高直径を測定したので、これをもとに断面積合計を出し、断面積合計／地面の面積を計算してあるので、桜井先生と結果について検討中である。成長曲線からはかなりアンバランス、不自然な状態であることもわかったので、やはり手入れが遅れ、成長もよくないこともわかった。間伐後の成長に期待したい。

午後からは県に売却された境界線を確認しながら、その周辺の下草刈りを行った。かなり広い部分に樹木がなくなってしまっている。地面も土が流れてしまっているように見えるので、植樹が必要かもしれないと考えている。望星の森にはスギを補植したので、こちらではヒノキを植えるのもいいかもしれない。

（報告：宮村　連理）

桜井尚武の森のコラム

「ヒイラギ（*Osmanthus heterophyllus*）のこと」

写真2.

写真1.

写真3.

冬の木と書く柊は暖帯に普通の小高木で嵐山にもそこかしこにあります。11月を過ぎるころ白い花を着けます（写真1.）。ギンモクセイ（*Osmanthus fragrans*）に似た白い花は、香りもモクセイに似ていて寒い季節でも虫を呼び寄せるようです。材は硬くしなやかで玄翁（げんのう；大きな金槌）の柄に最適だと石工が重用したといいます。

鬼の眼突きと呼ぶ地方があるという葉の棘は樹齢や生える場所により先端以外が目立たなくなったりします（写真2.）。この棘を鬼が嫌うといわれ、鬼がいるという北東方向の鬼門の位置に植えると鬼門除けになるといいます。鰯の頭とともに家の門口に飾って邪鬼の侵入を防ぎ厄払いを祈願する節分は2月3日に行われる伝統行事です（柊鰯）。

ヒイラギはモクセイ科で葉は対生、果実は黒紫色に熟しますが、欧米でChristmas Hollyなどと呼ばれるセイヨウヒイラギ（*Ilex aquifolium*）やアメリカヒイラギ（*I. opaca*）はモチノキ科で葉は互生し果実は赤く熟します（写真3.）。北国で常緑植物の少ない欧米ではクリスマス飾りに使われる季節の植物です。特にアメリカではメイフラワー号で渡来して以来故国を偲ぶ思い出の木として重要なんだそうです。葉の大きい、これもモチノキ科のシナヒイラギ（*I. cornuta*）もアチコチによく見掛ける冬に目立つ植物です。

※ヒイラギは11月に嵐山で、アメリカヒイラギは1月にBostonで撮影。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

２月２５日(日)に小原の郷にて小原宿活性化推進会議が主催する「小原の里の昔まつり」が開催されました。小原宿活性化推進会議には緑のダムとして参加させて頂いております。

今回お祭りでは、小原宿ライトアップに使う竹の灯篭作りや地元の大豆できな粉作り体験、お餅つき、小原の郷にて古民藝品の展示会を行ないました。

また地元のミュージシャン方をお招きして屋外ステージにて演奏をして頂き、賑やかな雰囲気の中、大勢の参加者で大盛況でした。

今回参加者の皆さんに作って頂いた竹の灯篭は小原宿ライトアップの時に使用します。
ご都合の良い方は是非ご参加頂けたらと思います。

■小原宿ライトアップ イベント情報
日時:３月２４日(土)17:30〜20:00
場所:小原宿本陣(相模原市緑区小原698-1)及び甲州街道沿いの街並み

※写真は小原本陣ライトアップウェブサイトより

齊藤　駿一（Forest Class）

【若者の森づくり】地球環境部

今回、初めて嵐山の森に行って「NPO法人　緑のダム北相模」の皆さんと共に活動をする経験を頂いた。測量とアオキの伐採作業をしたのだが、測量一つと言ってもたくさんの作業があった。
一番大変だったことは、目印となる赤白のポールとコンパスの地面からの高さを揃えて、メジャーで正確にコンパス〜ポールの間の長さを測ることだ。一回の測量につき、多くの時間をかけ、森の大きさを測量していった。この繰り返しが、森の特徴・周囲の様子を知るうえで、大切だということ学んだ。

アオキの伐採作業では、県有地との境界に気をつけながら足に絡みついてしまうほど生い茂っていたアオキ一帯を我々の力で伐採した。最初は、見たこともないアオキの量で驚いた。アオキの密集は、山の頂上まで普通に続いていた。だが、みなさんと協力して伐採がある程度終了して嬉しかった。

現地でも感想として述べたが、環境・森ということに関心を持たない人は、多いと思う。でも、今の日本の環境状況を知って行動することで見えてくるものがあると思う。色々対策を考え、若者がアクションを起こすことに意味があると考える。今回の経験を通して、環境について改めて向き合おうと思った。

元安　誠（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

【若者の森づくり】Forest Nova

高校のときに倫理という科目の中で南方熊楠の話を聞いたことがありますが、その時は民俗学の思想家として紹介されていて、さらに昭和天皇に粘菌の標本をキャラメル箱に入れて献上したというエピソードがコラムとしてとりあげられていました。当時の私は粘菌という科学的な分野と民俗学とのつながりが見えず、南方がどんな人物だったのか今一つつかめずにいました。

今回、上野の国立科学博物館で、南方熊楠の企画展があり、行って見ました。この2つが神社合祀というキーワードでつながるということが分かりました。南方が粘菌を採取した神社が神社合祀によってその土地が民間に払い下げられ、樹木が伐採されたことが怒りに火をつけ、有名な「南方二書」の中で神社合祀による森林伐採が生物の絶滅を招くことや、日本の文化や精神世界にまで影響を及ぼす恐れがあるということなどを生物や民族などの知識を総動員して例示し、合祀に強く反対します。こうした活動により鎮守の森の生態系を守ることができ、現在ではエコロジー運動の先駆けとも評されています。

このように南方は、自らの持つ膨大な知識の中から森というテーマの知識を引き出し、それを南方二書のような形で生かしていったのだと思います。いま大学で勉強している獣医学やこれまで学習してきた生物、化学など、様々な視点で森を見てそれを生かしていくことができたら、さらに深い活動ができるのではないかと思いました。

服部　七星（Forest Nova）

南方熊楠展の展示から
「結夏」を写し取ったもの。
解夏の字も読み取れる。

【事務局から】

フォレストノバが相模原市のボランティア認定を受けました

3月7日にフォレストノバが相模原市の地域活動・市民活動ボランティア認定制度にて認定、贈呈式に参加しました。これは相模原市と麻布大学との包括連携協定によるものです。来月号で詳細をご報告します。

軽トラックを更新しました（写真右）

間伐材や道具類の運搬に使ってきました軽トラックですが、故障やトラブルが相次いでいたため、セブンイレブン記念財団さまの助成で更新させていただきました。４輪駆動を選ばせていただき、これまで走行が困難だった物置前などもスムーズに出し入れできるようになっています。様々な活動の場面で活躍してくれると思います。

日本自然保護大賞に再び入選

平成２９年度、自然保護協会の日本自然保護大賞に応募しておりましたが、今年度も惜しくも入選（２度目）となりました。来年度、部門賞受賞に向け、活動をしていきたいと思います。

小金井市公民館事業で講師を務めました（写真左）

本会副理事長の宮村が、小金井市の公民館での若者の自主講座、はじめての家具職人になろう、の講師を務めました。この講座は若者が講座を企画し、木工自体は学芸大学の大学院生が指導し、森の話、間伐の話を宮村が担当しました。また本会の間伐材も一部使われ、組手什によるおもちゃ箱の取っ手部分やネームプレート部分に使われています。この模様は地元のケーブルテレビにも取り上げられています。同公民館は若者の利用が多く、またそれをターゲットにした珍しい公民館であることから、本会の若者の森づくりと連携していきましょうと今後の連携についても相談を始めています。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。